

つながる

Tsu-na-ga-ru

1

月号

2024
January
No.16



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

患者さんに後悔させない、 そのための新たな挑戦。

検診精査特集

CONTENTS

- 1 検査を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

職場や地域の定期健診、人間ドックなどを毎年、きちんと受けていらっしゃいますか。検査で異常が見つければ、そのままにせず、ぜひ精密検査を受けてください。今回の特集では、そうした方のために新しく開設した〈検診精査の取り組み〉についてご紹介します。ぜひご一読いただき、健康づくりにお役立てください。

SPECIAL REPORT

患者さんに後悔させない、 そのための新たな挑戦。

検診精査特集

検診・健診の要精査対象者を早期発見・治療に繋げる

CHAPTER 01 病気を早期診断する ための新しい外来。

令和4年8月、岡崎市民病院に検診・健診後の精密検査をおこなう外来枠が新設された。この外来は、健康診断や人間ドック、がん検診などで「要精査・要医療」となった人を対象にする、外来である。ここでは、医局長の朝田啓明を筆頭に、豊富な内科医が交代で診察にあたり、必要な精密検査の指示やスクリーニング検査（疾患のある人を発見することを目的に行う検査）などを行い、その結果に応じて各診療科へ紹介する機能を果たしている。

そもそものような目的でこの外来は開設されたのだろうか。朝田は次のように説明する。「岡崎市には健康診断や人間ドックを受ける人はたくさんいらっしゃるのですが、検査の結果、最も重症な要精密検査や要医療（早急に専門科医師の精密検査が必要）になった人の受診率が他の地域に比べてかなり低いんですね。そうした人々を何とか精密検査に繋げたい。そのために、私たち市民病院にできることはないだろうかと考えたのが始まりでした」。また、この着想の背景には、これまで腎臓内科を専門に歩んできた朝田ならではの経験もある。「腎臓は本当にナイーブな臓器で、全く症状がなかったのに症状が進んでいて、ある日突然、（人工透析が必要）と診断されることがたびたびあります。人工透

析になると治療に時間を取られますし、生活の制約も増え、それまでの人生がガラッと変わってしまいます。そうなる前から、（何であるときに病院へ行かなかったのだろう）と悔やまれる患者さんの声を何度も聞いてきました。そんな後悔を一つでも減らすように、検診・健診で引っかかった人を逃すことなく、次の医療へしっかり誘導する仕組みが必要だと考えていました」（朝田）。

朝田の長年の思いの詰まった「検診・健診後の精査枠」。開設以来、少しずつ患者も増え、朝田の思惑通り、尿検査や血液検査で腎機能の低下を指摘された人や糖尿病の疑いのある人、便潜血反応の陽性で大腸がんの疑いのある人などが病院を訪れている。それぞれに必要な精密検査をすることで、病気を早期診断し、その後の健康リスクを取り除くことに繋がっている。

C O L U M N

● 検診・健診後の精査が必要な方の外来枠の対象となる領域は、造血器・循環器・呼吸器・内分泌代謝糖尿病・消化器、がん検診後要精査の胃・大腸・肺・前立腺。病気が進行しないと症状が出にくい糖尿病や腎臓病、胃・大腸がん、肺がん、前立腺がんの早期発見に有効な検査と診断を行っている。

● 診察は、火・水・木曜日の午後1時から午後3時まで。なお、眼科・耳鼻咽喉科・産婦人科・乳腺外科の領域は、各診療科での受診となる。



CHAPTER 02

紹介状を持たずに 受診できる仕組みづくり。

順調に動き出したこの取り組みだが、開設までの道のりは決して平坦ではなかった。最も大きなハードルは（非紹介患者初診加算料・7,700円（消費税込み））である。これは、他の病院や診療所からの紹介状を持たずに同院を受診する場合等に発生するもので、その部分について地域住民の健康増進などの観点を含め院内幹部と協議。市の幹部の了承を得て、健康診断の結果を（検診・健診後6カ月以内は紹介状）とみなすことで、精密検査の必要な人が誰でも受診しやすい体制を整えた。また、同時に、院内の協体制づくりも重要な課題だった。「たとえば、肺がんの病気の疑いがある人の場合、呼吸器内科の先生に相談し、どんなふうにCTで撮影するか慎重に検討する必要があります。そうした協力がいっつも得られるように、各診療科の先生方をお願いして回りました」と朝田は振り返る。

る。こうした準備を経て、新しい外来枠をスタートさせることができたのである。

今後の目標は、市民への周知活動に力を注ぐこと。「まだまだこの外来枠の存在を知らない方も多いため、紹介状がなくても市民病院で精密検査が受けられることをもって伝えていきたいですね。また、検診・健診で要精密検査が出ると、何か重い病気なのではないかと思いい、目を背けてしまう方もいらっしゃると思います。でも、精密検査はそれほど恐れるものではありません。実際に当外来枠でも、進行した病気が見つかるよりも、早期の段階で見つかるケースが圧倒的に多く見られます。ですから、怖がらずにぜひ受診してほしいですね」と、朝田は話す。貴重な検診・健診の機会を有効に活かすことで、同院はこれからも一人でも多くの市民が重篤な病気にならないように力を注いでいく方針である。

BACKSTAGE

検診・健診を正しく活かすための、 市民病院の新たな取り組み。

●健康診断などで要精密検査や要医療であっても、検査を受けない人が少なくない。これは非常にもったいないことではないだろうか。検査は、症状がないうちに異常を見つける絶好の機会。「たいしたことない」と思わずに次へ進むことが、その後の健康寿命を大きく左右する。

●岡崎市民病院はその重要性に着目し、社会貢献の一環として新しい試みにチャレンジしている。今後、市民への周知が進み、どのような成果が生まれるのか注目していきたい。



検査を学ぼう

今回のテーマ

大腸内視鏡検査

大腸内視鏡検査とは？

内視鏡を用いて、大腸の腫瘍や炎症などの病気を調べる検査です。

■ 便潜血反応検査で陽性の場合の精密検査として。

健康診断の便潜血反応検査で陽性的の場合、大腸のどこかで出血が起きている可能性があります。出血の原因は、潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患、腫瘍、痔などの病気があります。とくに、症状が何もなくて出血している場合は、大腸ポリープや早期の大腸がんなどが疑われます。

便潜血反応検査で陽性となったときの精密検査として行われるのが大腸内視鏡検査（下部消化管内視鏡検査）です。これは、内視鏡（先端にCCDあるいはCMOSを内蔵した細長いビデオスコープ）を肛門から挿入し、直腸から盲腸まで大腸全体の内壁の粘膜表面をモニターで観察する検査です。当院では高精度・高画質の内視鏡設備を整え、経験豊富な医師が病変の形状や大きさ、表面の色調や模様、出血の有無などを詳しく確認します。



■ 検査で小さな大腸がんが見つければその場で切除。

大腸内視鏡の検査時に、2cm未満の小さな早期がんが発見された場合は、EMR（内視鏡的粘膜切除術）という手法を用いて治療することができます。これは、病変の下に生理食塩水などを注入してがんを浮き上がらせ、その根元に輪状のワイヤーをかけて高周波電流を流して病変部を焼いて切り取るものです。

EMRで切除できない大きさ（2cm～）のがんについては、後日改めて入院していただき、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）で治療することができます。ESDは専用のナイフで病変の周囲を切開して剥がしていくもので、病変を取り残さなく切除できるメリットがあります。開腹手術に比べ、患者さんの体の負担も軽く抑えられることから、当院では積極的に行い、実績を重ねてきています。



Doctor's message



消化器内科統括部長
（院内内視鏡センター長）
藤田孝義

患者さんの苦痛を和らげながら安全な検査・治療を行います。

当院内の内視鏡センターでは、内視鏡を用いた診断と治療を年間約6,000件、実施しています。大腸については大腸がん検診を行っているほか、患者さんの体の負担を最小限に抑えた低侵襲治療（ESDなど）にも力を注いでいます。

「大腸の内視鏡検査は、とにかく痛くて辛い」というイメージがありますが、近年は検査

器具や技術も進化し、痛みはかなり軽減されています。当院においても、患者さんが不安なく安全に検査や治療を受けられるように、医師、診療放射線技師、看護師が力を合わせて取り組んでいます。内視鏡検査について不安なことがありましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。



岡崎
の
Team

チーム医療を知ろう

今回のテーマ

腎臓病療養支援チーム

早期発見、早期治療、重症化の予防、そして、患者さんごとの適切な療養生活をフォロー。

■ チーム結成から10年。
■ 多職種で慢性腎臓病患者さんを支援します。

近年、新たな国民病として「慢性腎臓病」が浮上しています。これに対応するため、当院では平成25年、多職種からなる腎臓病療養支援チームを結成。早期発見し早期治療に繋げるとともに、重症化の予防や、適切な療養生活に繋げるためのフォローを行っています。

まず早期発見・早期治療については、地域生活者を対象に、腎臓病教室を開催。座学はもちろん、検査データとお薬手帳を持参いただき、個別相談もお受けしています。また、入院患者さんには、採血検査結果を確認し、腎機能低下の疑いがある方には、多職種で病室を訪問するCKD（慢性腎臓病）ラウンドを実施。そこで得た情報はチームで共有し、栄養指導や服薬指導を通して、重症化予防に全力を注いでいきます。



■ 腎代替療法選択外来では、一人ひとりの患者さんに応じた支援を行います。

慢性腎臓病で、腎臓がほとんど機能していない末期腎不全の状態になると、透析治療や腎移植などの腎代替療法が必要になります。その段階の前には、腎代替療法選択外来をお受けいただき、透析を少しでも遅らせる生活の仕方、また、透析療法のご説明など、一人ひとりの患者さんに応じた支援を、チーム全員で組み立てていきます。

なお、透析治療には、透析器を介して血液をきれいにする血液透析と、お腹に透析液を入れ、自分の腹膜を利用して血液をきれいにする腹膜透析があります。当院は、全国でも有数の腹膜透析の医療体制が充実した施設であり、腎臓病療養支援チームが市内の訪問看護師と連携し、患者さんが安心して腹膜透析を受けられるようサポートしています。



Staff's message



看護局
透析看護認定看護師
星井英里

院内の糖尿病療養支援チームとも連携。支援の輪をさらに地域に広げていきたい。

腎機能が元に戻る急性腎不全と違い、慢性腎不全は、元の状態への回復はありません。健診やかかりつけ診療所でリスクを指摘されたら、速やかに精密検査を受診されることをお勧めします。私たち腎臓病療養支援チームは、院内の糖尿病療養支援チームとも連携し、治療はもちろん、お悩みや心配事にもきめ細かくお答えし、治療と療養生活を

支えていきます。

今後は、愛知医科大学病院・藤田医科大学病院との3病院合同の腎臓病のイベントを構想するなど、地域の方に腎臓病をより深く理解いただくとともに、支援の輪を地域にさらに広げていきたいと考えています。



プラス
α

▶ 健診結果を活かそう②

要精査の結果が出たときには、できるだけ早く受診するようにしましょう。

11月12日に、岡崎3病院集合の糖尿病予防イベントを開催。

11月14日は「世界糖尿病デー」。この日を中心に、11月12日から11月18日まで全世界で繰り広げられる糖尿病啓発キャンペーンは、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。今年度、岡崎市民病院、愛知医科大学メディカルセンター、藤田医科大学岡崎医療センターの3病院が籠田公園に集合し、「糖尿病予防イベント」を開催しました。午前中は、血糖値を下げるウォーキングとして、籠田公園から岡崎城まで「ウォークラリー」を実施。午後には、糖尿病専門医考案の「青空健康体操」で筋肉を鍛えました。また、各医療職によるポスター展示や血糖値測定、医師らによる健康相談も開催しました。



診療の補助業務を、医師の「手順書」のもと実践する特定行為看護師。

看護師の特定行為研修制度は、超高齢社会に向けて、急性期から在宅医療までカバーする看護師を育てることを目的に始まりました。当院でも、チーム医療推進のための特定行為看護師の増加に力を入れており、吉田照美看護師が「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の研修を修了しました。これまでも、消化器内科や整形外科病棟で糖尿病患者さんへの対応を内分泌・糖尿病内科医が行ってききましたが、特定行為看護師の登場により、泌尿器科病棟でも高血糖患者さんに迅速に対応できるようになりました。「特定行為を通して、患者さんの1日でも早い病状回復に尽力していきます」(吉田)。



吉田看護師が修了した特定行為区分

血糖コントロールに係る薬剤投与関連の特定行為看護師

院内 糖尿病センター 副センター長/
看護局 看護長補佐
糖尿病看護特定認定看護師 吉田照美

20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で
当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00~

1月18日(木) 身近に起こる危険!~ヒートショック~
看護局看護師主任 磯谷美帆

2月22日(木) “尿漏れ”困っていませんか?
看護局看護師主任 排泄機能指導士 高田健太
リハビリテーション室副主任 排泄機能指導士 山本昭江

3月14日(木) 「沈黙の臓器」腎臓の声に
耳を傾けましょう
透析看護認定看護師 星井英里



エフエム EGAO
(76.3MHz)



これまでの
放送内容は
こちらから!



岡崎市民病院
公式ホームページ



Instagram



@okazaki.hp



X (旧Twitter)



@okazaki_hp



YouTube



岡崎市民病院

検索

岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2024
No.16 1月号

発行責任者/院長 小林 靖 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2024年1月